

したやウィンドアンサンブル



1955年、台東区が設けた「台東区青少年吹奏楽団」が前身。創立当時は区の社会教育課直接の運営であったが、1967年、区の運営から団員による自主運営となり、これを機に「下谷ウィンド・アンサンブル」と改称。1994年、家田厚志氏を音楽監督に迎え、その成果として第18回定期演奏会ではベルリオーズの「葬送と勝利の交響曲」を演奏、圧倒的な反響を呼ぶ。1996年、第20回記念定期演奏会を機に、より親しみやすい表記として現在の「したやウィンド・アンサンブル」へ改称。以降、意欲的な企画の演奏会を開催してきている。

今回の演奏会では、豪華絢爛なオリエント急行にのって、ジブリから懐かしの特撮物まで、涙をさそう!? 日本映画館へご案内いたします。

上野浅草室内管弦楽団

当団は上野浅草フィルハーモニー管弦楽団を前身として1987年に設立された小編成の室内オーケストラです。台東区在住在勤のアマチュア演奏家を中心に小編成の特徴を生かし、一人ひとり綿密で徹底したアンサンブルの訓練を心がけています。月2回、日曜日の夕方に浅草小学校で練習に励み、その成果を発表する場として、年2回、我が国最古の演奏会ホールである旧東京音楽学校奏楽堂で定期演奏会を開催してきました。早いもので設立から30年を迎えました。

今回の音楽市では古典派（1800年前後）の大御所作曲家の名曲を選曲し、30周年に恥じないプログラムに挑戦します。誰もが聞いたことのあるフレーズにミスは許されませんが、終演後には全てのお客様に笑顔で帰っていただける楽しい演奏会になるよう一生懸命演奏いたします。

爽やかな秋風と共に奏でる名曲の数々をお楽しみ下さい。



上野浅草フィルハーモニー管弦楽団



1984年に東京都台東区の音楽愛好家によって設立。1988年には台東区の姉妹都市であるウィーン市との文化交流の一環として渡壇し、演奏会を行う。1933年に創立10周年記念演奏会としてベートーヴェンの「第九」を、日本で初演された旧東京音楽学校奏楽堂で、初演当時のスタイルと規模で演奏。2005年に東京文化会館・第20回オーケストラフェスティバルにて、森利子バレエ団と共にチャイコフスキー「白鳥の湖」を上演。2016年第60回記念演奏会では、すみだトリフォニーホールにて、レスピーギ「ローマの祭り」サン・サーンス交響曲第3番「オルガン付」を演奏。年2回行われる定期演奏会では「語り」を交えたコンサートや、演奏会形式によるオペラ、バレエ団との共演を数多く行うなど、ユニークな企画を演じて、これまでに62回を数えます。

また選曲も芥川也寸志や伊福部昭など邦人の曲を取り上げたり、プーランク、フォーレなどフランス人の作曲家ばかりのプログラムを組んだり、プロのオーケストラでもあまり取り上げないような曲にも積極的に取り組み、数あるアマチュアオーケストラの中でも、その独創性で注目されています。